



講習センターでの思い出



国	籍	中国
職	種	水産練り製品製造
実習実施者		株式会社紀文食品
監理団体		すずらん協同組合

吴 梦婷
WU MENGTING

世界は広く、私の知らない多くの未知があると思います。しかし、自分の殻を破らず外に出ないと、そんなことはわかりません。

私は日本に来て丸一年になりますが、一年前に日本に行くことが決まった時から、言葉は大丈夫かな？日本に行って後悔しないかな？という不安の反面、楽しいことへの期待や初めて外国人の友達ができるワクワク感などがありました。こうして私は沢山の未知の世界への一歩を踏み出しました。

成田空港に到着した時の、初めての日本の景色を見て、慣れない言語を聞いて、とても緊張していました。到着出口で私たちを待っていたのは、面接したときに会った実習先の課長と中国人の先生でした。見たことのある顔を見て緊張が消えていきました。挨拶が済んだ後は、これから一ヶ月の間、日本のことを勉強する講習センターへ移動しました。異動途中の車の中のステレオから日本語の歌が流れていて、音楽を聴いているうちに、講習センターに到着しました。

そこには、沢山の外国の実習生が待っていました。実習生は私だけでなく、もっと良い将来のために頑張っている仲間が大勢いることに気

付きました。初めて教室に入ったときにとてもびっくりしました。そこにいる外国人の実習生が笑顔と大きな声で挨拶してくれて私たちを歓迎してくれました。これまで実際に見たことがない外国人の顔、肌、手、足など、全てが異なる外国の人とは全く接点のない私ですが、日本での実習生活を楽しみにしていることは同じだと感じました。

初めて自己紹介した時のことを思い出します。恥ずかしがり屋の私が、自分の番を待っている時に緊張しすぎて頭が真っ白になり、以前から練習していた自己紹介の内容が全て飛んでいきました。その様子を見ていた先生達や他の実習生は皆笑っていましたが、皆は「ムテイ、大丈夫だよ、最初は、初めまして！でしょ、せーの」というように優しく応援してくれました。そのおかげで自己紹介ができ、沢山の友達ができました。講習センターで毎日勉強が終わると皆は教室で丸く輪になって座り、皆でゲームをしたり歌を歌ったりギターを弾いたりして自分の趣味を披露する人もいて、とても面白かったです。この交流は本当に印象深く、今思い出しても非常に懐かしい思い出です。

講習センターでの一ヶ月の教育が終わりました。出会いがあれば別れもあります。センターの先生や、他の国の実習生たちとの別れを思い出します。私は今も元気に実習していますが、あのとき出会った彼らは元気になっているのかな、と思う時があります。

一ヶ月という短い期間でしたが、講習センターでの思い出は、先生が厳しくも優しい、勉強は難しくも楽しい、時間が過ぎるのが早く充実していたなど、貴重な思い出ができた一ヶ月でした。この経験は、生涯忘れることはないと思います。